

答 辞

本日は学長先生をはじめ諸先生方、並びにご来賓の皆様にご臨席を賜り、このような盛大な学位記授与式を挙げていただき、誠にありがとうございます。

私は本学の外国語学部を卒業した後、言語教育研究科修士課程に進んだので、姫路獨協大学には 6 年間在籍しておりました。その母校から巣立つことにつきましては、非常に感慨深い想いを抱いております。

姫路獨協大学の大学院は、本学や他大学からの進学希望者はもとより、社会人として働いている人にも、広く門戸が開かれています。大学院では学生が主体となって行う授業が多く、学生同士で意見を交わしたり、一つの問題について共に考えたりする機会が多くありました。そのような形で、年齢も背景も異なる人々と接してきたことは、自分自身を成長させる良い刺激となりました。

2 回生になると、自分の研究課題を明確にし、本格的に修士論文の作成にとりかかりましたが、論文を作成していく過程では、自分の考えを的確に示す表現にならなかつたり、参考となる文献をなかなか見つけることができなかつたりと困惑することが多くありました。ときには心が挫けそうになることもありましたが、院生同士で互いに支え合い、励まし合い、艱難辛苦の末に本日を迎えることができました。

私たち修了生一同は、入学以来、先生方のご指導を受けながら、それぞれが掲げた研究課題に取り組み、この 2 年間邁進して参りました。その間、幾度となく困難に直面し、向かうべき道を見失ったとき、指導教授を始めとする多くの先生方のご指導、ご鞭撻により正しい方向へ進むことができました。今日まで熱心に指導してくださいました先生方に、修了生一同心より感謝申し上げます。

姫路獨協大学大学院での 2 年間は、私たちにとって大きな自信となり、そして財産となりました。今後いかなる道へ進んだとしても、大学院での経験は、人生の中で大いに役立つことと思われまふ。このような実りある時間を過ごすことが出来たのは、諸先生方や姫路獨協大学の職員の方々、そして家族のおかげです。支えて下さった皆様方にあらためてお礼申し上げます。

最後になりましたが、姫路獨協大学のさらなる発展と、皆様方のさらなるご活躍とご健勝を心よりお祈り申し上げ、答辞とさせていただきます。

平成 24 年 3 月 23 日

姫路獨協大学大学院

言語教育研究科言語教育専攻

後 藤 佑 麻